

コンピューターとの関わり

都留文科大 初等教育学科教授 山本 安夫

私の専門分野は原子核物理学ですが、仕事の必要上コンピューターによる数値計算を長年やっています。その関係で、学内では学生向きのコンピューター教育も行っています。何年か前には都留市民向けのパソコン教室にも携わりました。私のゼミには物理学よりもコンピューターに関心があつて専攻した学生も結構います。近年、パソコンは「高級文房具」として急速に普及してきていますが、アメリカ等にはとまだまだのよう

です。欧米ではパソコンはどの家庭にも普及していたタイプライターの進化したものとして受け入れられたのに対し、わが国では特殊技能を要した和文タイプがワープロ（パソコン）という形で初めて大衆化したという歴史のズレのためでしょう。アルファベット二十六文字で表現される英語に比べ、数千の文字を要する日本語はタイピングにとって致命的に不利でした。その点が日本語ワープロの可入

力―漢字変換という方式で一応克服された事は、文化的な意味で革命的な出来事と言ってよいと思います。いずれにしても、コンピューターは会社や学校はもちろん各家庭にも急速に普及し、テレビ、ビデオ、CDディスク、ファックス、コピー機等の情報関連機器と統合されていくことでしょう。

私は大学院時代（二十数年前）にコンピューターによる計算を始めました。当時は、数百枚、数千枚の紙カードに打ち込まれたプログラムを抱えて大型計算機センターに行き、処理を申し込むと一日、二日で結果が出て来るというような時代でした。当時の私の計算は現在ならば自宅のパソコンでも出来るような事です。コンピューターに携わっている人間は社会的にはごくまれで、私が十五年前に本学に着任した時には「同志」は心理学の小熊先生だけでした。しばらくして、いわゆるパソコンなるものが初めて登場しました。私はさっそく物理教室の予算をはたいてシャープ製のMZ-80Bなる機種を導入しました。大学の事務レベルでは購入ルートも分からなかったもので、自分で店を捜し大学まで車で運びました。当時の8ビットパソコンで出来た事は学生のプログラミン

グ教育程度で、私自身の仕事には何の役にも立ちませんでした（予算不足でフロッピーディスクはもちろん、プリンターもなかったのです）。PC-9800シリーズに代表される16ビット機と、日本語ワープロに代表される実用的なパソコン用ソフトウェアの登場で状況は大きく変わりました。本学にも情報処理関連科目が開かれパソコン実習室も設置されました。初等教育学科の新カリキュラムではコンピューターの実習のための科目が必修になります。他大学では学生にノート型パソコンの携帯を義務付けているところもあり

ます。教員の中での普及も著しく、今だに手書きで原稿を書いている方は少数になりつつあります。私などよりはるかにパソコンを使いこなしておられる先生方も増えました。私のゼミの学生も大半がパソコンや専用ワープロを所有しています。コンピューターは「計算機」から「情報処理のための文房具」になったのです。

私の場合でいえばパソコンは論文作成や通信回線を使った情報交換に不可欠の道具になっています。加えて大学での会議用の資料作成のために使うことも多くあります……手書きの資料を出すのはみづから！研究のための数値計算にパソコンを使うことはそれほどありません。いまだに大型計算機です。しかしパソコンやその上のリンクに属するワークステーションの処理速度の向上で、私のいる

物理屋の業界でも大型汎用計算機の使用は減りつつあります（超高速計算用のスーパーコンピューターは別として）。いわゆるダウンサイジングと呼ばれている現象です。数年前、私の「夢」は学内にある端末から専用回線で大型計算機ネットワーク網に入る事でしたが、今はむしろ自前のワークステーションを導入して存分に計算したいと思っています……本学の現状ではいづれも実現は困難ですが、パソコンは高級な「おもちゃ」としても実に面白く、没入すれば時間を忘れさせてくれます。しかし一番の関心事はやはり私の研究テーマであるストレンジネス核物理の分野で良い仕事をする事です。当分は趣味としてパソコンを楽しむ時間は取れそうにありません。

市民と学生の参加するパソコン入門講座

主催 都留文科大 人工知能研究會
（顧問 植村憲治教授）
対象 初めてパソコンにさわる人で、三日間連続して出席できる人
募集人員 20名
日時 2月15日（月）～17日（水）
場所 都留文科大 新研究講義棟4階
講師 学生（人工知能研究会）
参加費 300円（ディスク代）
用意するもの 筆記用具
申込・問合先 ☎（45）6940
初等教育学科一年真瀬正義
締切 2月12日

国際親善学生募集

奉仕を目的とする国際ロータリー財団は、1994～95年度ロータリー財団国際親善奨学生募集を始めました。締切りは来年4月30日です。

奨学生のコースは大学院課程、大学課程、職業研修、障害者教師、ジャーナリズムの5つの他、今回より新たに3カ月、6カ月の短期語学研修のコースも設けられました。奨学金の内容は往復旅費、期間内の教育費、生活費、雑費です。

応募資格は当地区出身、または在住者で、教育程度は、来年7月15日現在、大学院課程が学士号または同程度、大学課程は大学2年終了（いずれも職歴は不要）その他の8課程は高校卒業程度（いずれも最少2年間の職歴）、短期語学研修は大学レベルで1年以上の当該国語の履修が必要となっています。

語学審査は、短期語学研修を除き、英語圏の場合、トフルの検定で550点以上、その他の言語圏ではベルリッ・スクールの検定で「GOOD」以上が必要です。

その他の詳細は都留ロータリークラブにお尋ねください。選考試験は来年5月30日です。 ☎（43）6518